小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人かたばみ会	代表者	佐　藤　淳　司
事業所名	多機能施設かたばみ荘	管理者	佐藤　千代樹

法人・事業所の特徴	事業所は光ヶ丘の高台に位置し、窓からは海岸線も見え、日本海に沈む美しい夕日を眺めることができる。住み慣れた自宅でいつまでも過ごすことができるように、生活リハビリや必要な介護をご家族と一緒に作り上げています。また、重度の要介護状態になっても同法人で運営する特別養護老人ホームかたばみ荘と連携を図り、支援が可能。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	2 人	人	1 人	1 人	人	2 人	人	6 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所全体で来年度の改善計画を再確認して、達成可能な9つの改善計画を作成する。	運営推進会議の開催について: 今年度、委員の皆様一同が集まっての会議開催は5月の1回となっている。 庄内地域でも医療機関・高齢者施設でコロナ感染、クラスターが継続して発生しており、法人内の他事業所でも11月に1ヶ月以上に渡ってコロナ感染対応を行っている。 コロナウイルス・インフルエンザの同時流行の動きがあり、感染予防対策として文書での会議開催が続いている。 今年度の外部評価について: 運営推進委員の皆様から、文書での事業所自己評価を確認していただき、4つの項目について「はい」の意見を頂いている。 事業所内で話し合い達成可能な計画内容を作成し、ワーカー室内の壁に9項目の改善計画を張り出ししている。	事業所内で先に行っている＜事業所自己評価・ミーテイング様式＞評価9項目を委員の皆様へ配布させていただき確認いただいている。 コロナ対策により文書回覧による評価であった為、評価9項目の中で評価し難い部分については写真の添付等をしているが、委員の皆様には確認し難く、分かりにくい部分があったと思います。 高齢者施設でコロナ感染クラスター状況が継続しているため、施設内での委員会の開催は予防対策のため今年度難しい状況となっている。	事業所自己評価9項目について、事業所内に張り出し、全職員が活動計画を確認して実施し易いようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症予防、クラスター予防を行いながら、利用者からのニーズを取り入れ、事業所内で都度相談し具体的な実施を行う。	この件に関しましては、コロナ禍以前の時期で、、当時の環境状況で判断しており、現在も依然と変わりないと思っています。	外部評価の＜地域かかわりシート①＞を委員の皆様より評価して頂く際に、添付資料として写真で確認させて頂いている。	感染症予防対策（施設内清掃消毒、手洗い消毒、換気、ソーシャルデイスタンス、感染症基本対策）の実施と共に、一人一人がゆっくりと落ち着ける環境を作る。（和室の活用、手仕事や趣味の作業場所、ソファーとテーブル配置等）
C. 事業所と地域のかかわり	令和4年度版「多機能施設かたばみ荘通信」を作成する。来訪者が玄関先からでも手に取りやすい環境整備を行う。	「多機能施設かたばみ荘通信」の出版を未確認ですが、それによって事業所のPRも外部との関わり方も変わってくるのではないかと思います。いずれにしてもコロナ禍の収束後に、活動再開を期待します。 →令和4年度版「多機能施設かたばみ荘通信」を窓口へ準備し来荘された方への対応を行った。	松陵いこいの場にて運動会に参加いただきありがとうございました。 「松陵いこいの場大運動会」のお手伝い参加。今後も地域行事でのお手伝いをしていきたい。	利用者と一緒に屋外での活動を行う際に、事業所前を通る地域の方々へ挨拶をすることで多機能施設かたばみ荘の周知に繋げる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ禍での感染予防と地域の発生状況を確認しながら、外出の機会を多く持ち活性化した生活支援に繋げる。	コロナ禍ではありますが、様々行事を行い、ドライブやコミセンへ行っている事が分かりました。 コロナ感染拡大が止まない中で感染対策をしながら施設外での活動や、地域との連携を図っていくのは本当に大変だと思います。その中でも少しでも関わりを持つ様に取り組んでいる姿勢や「～したい」という前向きな意見はとても良いと思いました。	今年度の地域とのかかわりとして、 隣のストアへ生活用品や食品の買い物同行。 松陵文化展・琢成文化祭への作品出展と、利用者少人数での参加。 荘内銀行展示会への作品展示と利用者少人数での参加。 北新町1丁目公園へ散歩し、みんなで陸橋から汽車を観る。 光ヶ丘公園の足湯。 近所の花見ドライブ、港ドライブ等。 万里の松原散歩等を行っている。	コロナ予防対策を行った上で、施設行事として外出の他、個別の希望要望から地域へ随時外出の支援ができる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍での運営推進会議へ、ケアワーカーが参加し、事業所内での支援、行事等の細かな説明を行っていく。	コロナ禍で会議は書面となった為、ケアワーカーと会う機会はなかったが、出た変更はその都度対応いただいた。	会議で出された意見については、改善に取り組んで行こうとする姿勢が何時でも伺えます。	コロナ感染予防対策と感染状況を確認しながら、運営推進会議へケアワーカーが参加し支援状況等を説明していく。
F. 事業所の防災・災害対策	定期的な災害マニュアルの確認を全職員対象に行っていく。	計画された災害訓練の他に、感染症発生時訓練も今年度2回行っている。訓練の際は事前にマニュアルを確認している。	災害発生時（特に津波）の場合、高所にある多機能施設には一時的に避難場所として利用（怪我人の手当等）させてもらう場合があると思うので、頼りになると思っています。	火災・風水害・地震災害訓練の他に、感染症発生対応訓練を実施している。突然の有事対応に落ち着いて対応するため、計画的訓練と随時確認を行う。